

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまぎり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	令和2年10月9日	評価結果市町村受理日	令和2年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーに、旬の食材をおいしく食べる。畑の手入れやホーム周辺の草取りを職員と一緒にしています。家族の面会時間を制限せず、夜間寝顔を見に来られる方や、昼食・夕食の介助に毎日来て下さる家族がいらっしゃいます。残された人生に家族が関われる時間を支援したいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは周囲に住宅街と閑静な田園風景が広がる閑静な場所に位置している。ホームの一日は朝礼の際の「今日も楽しく笑顔で」との管理者の言葉や職員から入居者への笑顔の挨拶で始まり、理念の周知と実践に繋がっている。ホームには日頃から地域の方が訪れる機会が多く、農産物の差し入れのほか地域の方からの介護相談などに管理者が親身になり対応している。近隣には高齢者が多く居住していることもあり、地域の避難所としてホームを活用してもらうほか、有事の際には地域と互いに協力し合う関係を築くなど、地域の方に安心して暮らしていける地域に根付いたホームとして取り組んでいる。入居者からの食事のリクエストや買物の希望、花見、ドライブなどの要望に応じて、できるだけ当日に実行できるよう取り組んでいる。買物支援では入居者の嗜好品や衣料品など入居者本人が選択し購入できるよう支援している。管理者は職員の希望に応じ勤務体制や勤務時間を変更・調整するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。人と人との関係性を大切に温かみのあるホームであることが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホーム「あまぎり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーに利用者様、家族、職員の笑顔を多く見られるように心がけている	理念は開設当初からの代表者の思いを表しており、リビングに掲示し職員へ周知している。朝礼の際には「今日も楽しく笑顔で」との管理者の言葉や、職員も入居者に笑顔で挨拶し一日を始めるなど理念の周知と実践に繋げている。理念は職員会議で振り返り、入居者が楽しく過ごしているか話し合いの場を持つことで入居者の意向の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の新生堂薬局や、まるけんに買い物に行ったり、近所の方が遊びに来て下さいます	日頃から地域の方がお茶を飲みにホームへ寄ったり、野菜の差し入れで訪れたりするなど、地域との繋がりが深く開かれたホームである。他にも介護保険の申請方法やサービス内容、認知症状についての相談を受けるなど、その都度親身になって対応しており地域からの信頼も厚い。有事の際には互いに協力し合える関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護の相談をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況や日常の様子、家族の要望、行事、入退所報告や研修会の紹介、問題解決への話し合いをしている	運営推進会議には家族・南島原市地域包括支援センター職員・市議会議員が出席し、活発な意見交換ができています。ホーム前面の道路が整備されておらず、車椅子での移動や地域住民が歩行する際も転倒の危険性があつたことから、道路補修の手続き方法を市議会議員へ相談し、安全への配慮に努めるなど様々な課題解決に向けて運営推進会議を活かし取り組んでいる。運営推進会議録は全家族へ郵送しホームへの理解を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の方に毎月の書類の提出を行い、わからないことを相談し、アドバイスを頂いています。	市介護保険課へ毎月空床状況の報告と年度末にはグループホーム入居者状況報告書を提出し、ホームの実情を伝えている。入居に関する困難事例については市社会福祉協議会と島原地域広域市町村圏組合と連携を取り相談するなど、協力関係を築いている。また、家族からの依頼に応じて申請代行を行う際にもホームの様々な取り組みを積極的に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ宣言しています。	昨年度、グループホーム連絡協議会主催の「身体拘束、虐待防止について」の研修会に参加し、参加できなかった職員には社内研修を行い、身体拘束についての理解を深めた。睡眠導入剤や安定剤を服用している入居者の受診には必ず職員が付き添い、医師に日々の状況を正確に伝え、不必要な服用とならないよう努めている。外に出たいと希望する方には職員が見守りながら散歩をするなど、本人の気持ちを大切に支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否や暴力行為がある場合には職員交代や時間を置いて声掛けしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し同意してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に話をし、意見をきいています。また、遠方の家族にはSNS等を利用して意見を聞いています。	職員は家族との面会時に入居者の状況を報告し意見を聞くよう努めている。遠方の家族には行事の写真や動画を送り、コミュニケーションを図ることで意見が言いやすいよう工夫している。家族の要望は職員会議や朝礼時、日々の日誌にて職員間で共有している。家族・入居者からの要望に応じてマットレスや衣類・布団類の調整を行い、入居者が快適に過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで利用者様や家族の要望を報告、ケアについて意見交換し介護方法を統一する。	月1回の職員会議に全職員が参加できるよう勤務調整を行い、職員会議を通じて職員意見を聞いている。職員の急な私用の場合でも勤務体制や勤務時間の変更に応じており、管理者は働きやすい環境づくりに努めている。入居者の外出や物品購入のほか、職員の提案やアイデアなどを運営に反映している。入居に関する相談があった際には全職員で話し合い、支援方針を決定するなど統一したケアに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を記入してもらう。労務士と話し合いながら給与水準を設定		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県GH連絡協議会、島原半島GH連絡協議会、南島原GH連絡協議会が開催している研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空所状況の共有や色々な相談を受けたりしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を作成し、本人・家族と話し合い了解の元サービスを提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されて不安を感じられる場合には毎日でも、面会に来ていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関、居宅からの情報提供と家族の希望や本人の様子を見ながら作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、見守り、声掛けを行い、出来ない部分を支援させていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やTELにて近況報告し、衣類等の補充や、困っていることなど、家族からの相談を気軽に受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昼食、夕食の食事介助に毎日来ておられる家族を受け入れています。	ホームでは家族や近所の方、友人の面会があった際にお茶を出し、ゆっくりと話せる環境づくりに努めている。入居者の希望を家族に伝え、家族と入居者が一緒に墓参りに外出したり、入居者の記憶を辿りながら職員と一緒に自宅へ行ったりするなど昔を思い出す機会に繋げている。面会時間の制限はなく、家族の都合に合わせていつでも面会できるよう配慮し、入居者・家族の安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファでおしゃべりをされたり、一緒にテーブルで作業することで会話を楽しんでいます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族から気軽に相談される		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、思いや、悩みを知り、その方が笑顔で暮らせるように支援する。	ホームでは入居時の基本情報書にて入居者本人や家族の希望・身体状況・生活歴・職歴・趣味・特技を把握し、本人の意向に沿った生活ができるよう支援している。入居者より買物に行きたいと希望があった際は、嗜好品や衣類など自分で選び購入できるよう支援している。職員は入居者の横に座り、ゆっくり話をすることで思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から入所された方の暮らしぶりは把握できないことが多いが日々の暮らしの中と家族との会話の中で把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや夜間、日常の会話の中で把握する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き日々の様子など検討会を開き、それに基づいて計画を作成する。	家族の意向は面会時や電話で確認し、ケアプランに反映している。ホームでは月間ケアプランチェック表に短期目標・サービス内容を記載し、毎日実施状況を記録することでプランに沿った支援ができるよう努めている。また、職員会議で日々の実践状況について確認しながらケアプランを検討し、現状に即したプランの立案ができるよう努めている。遠方の家族には電話でプラン内容を説明し、郵送にて署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録を活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、本人の特変時に素早く対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が野菜や魚を持ってきてくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受信前後の報告を行う。また、家族からの相談・希望などを主治医に伝え、アドバイスをもらい、家族に伝える。	入居者がこれまでのかかりつけ医を受診できるよう職員が同行支援している。受診時は日々の個人記録を持参し入居者の状況を主治医へ伝えるとともに、入院時にはホームの介護サマリー(入居者の情報をまとめたもの)を医療機関へ提出し、入居者の情報共有を図っている。治療方針決定時のカンファレンスにはホーム職員も参加し、医師へホームで可能なケアを伝え適切な医療が受けられるよう支援している。受診後の留意点は日誌と事務所のホワイトボードで職員へ伝達し共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ情報を伝え、適切な看護、受診が受けられるよう連携を図る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供、介護サマリーを提供する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な書類を作成し、家族・主治医・看護師等と連携し指針作成、家族への説明・同意をとる。	ホームでは平成30年11月にビハーク研修会「医療現場からのメッセージ」に参加し、現在もその時の資料をもとに社内で研修を行い、学びの機会、職員の心構えとしている。入居者の看取り期を踏まえ、看取りについての指針を家族へ説明し同意を得るほか、ホームでできる最大のケアについて主治医と家族へ伝え、主治医の判断と家族の希望に応じて看取りを行い、本人及び家族の意向に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には各自何をするのか状況に応じて行動できる様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	近隣住民や近くの方の協力は得られるように話をしています。	ホームは地域との関係性が深く、日頃より交流するとともに有事の際の協力関係も築いている。避難訓練は入居者参加型で実施し、職員が責任感を持って取り組んでいる。排煙口を廊下に3箇所、ホーム周辺に防犯カメラを4箇所設置し、入居者の安全確保に努めている。防犯カメラの設置により、今年度の台風時におけるホーム周辺の確認と入居者の安心に繋がった。防犯カメラは管理者の携帯電話と連動しており、有事の際の早期対応に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声掛けをしています。また、敬意を払った声掛けや対応をしています。	ホームでは日々の振り返りの機会として、令和2年11月に「言葉遣い、社会人としてのマナー」研修をホーム内の研修会として予定している。職員は職員自身の家族に対する嫌な言葉掛けや介助を想定し、安心感が得られるような対応に心掛け、入居者本位の介助に努めている。入居者に待ってもらった時も説明し本人の納得を得てから待ってもらうなど、一人ひとりを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく言葉を発してもらい、意思を伝えてもらうよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外に出たいとの訴えに、職員と一緒に外出しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合う洋服を着ていただくように声掛けをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に何を食べたいかを聞き、なるべく希望に添えるようにしています。	献立は入居者の要望を聞いて職員で話し合い決めている。当日に要望があった場合は可能な限り対応することで入居者の喜びへ繋げている。管理者が釣ってきた魚を生きたまま入居者に見せ、どのように調理するかを入居者に決めてもらうなど食事が楽しいものとなるよう努めている。管理者は「高齢者ソフト食」を学び、見た目や味を損なわずおいしく食べられるよう入居者の安全と食の楽しみを考え支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500ml以上飲用して頂いています。ムセ込みがある方にはとろみをつけたり、ゼリーに対応している。アレルギーがある方には代替え食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は磨きをして頂き、月に2度訪問歯科を受信し口腔内の状態を見てもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを24時間シートにて把握している。頻尿の方は主治医と連携を取り薬の処方をしてもらう。また、なるべくトイレにて排泄をして頂ける様に声掛けし誘導しています。	職員は24時間シートを活用して入居者の排泄パターンを把握しトイレへ誘導するほか、立位困難な方も職員介助にてトイレへ誘導することでトイレでの排泄に繋げている。また、入居者個々の尿量やトイレに行くタイミングによりオムツの種類を検討し、その都度見直しを行っている。管理者はオムツに関して学び、お茶の葉を使用した不快な匂いがしない尿取りパットを選定することで、入居者の快適さや失敗時の羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と野菜類の摂取に気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本とし、気の合う方と入浴されています。	入浴時には入居者の好みのシャンプーや、季節に応じてゆず・バラ・ポンカン・お茶・入浴剤を準備し、入浴が楽しいものとなるよう支援している。重度の方は職員2人で介助を行い、また、浴槽内に滑り止めマットの使用・浴槽クリップにて手すりを設置するなど、入居者が安全に入浴できるよう努めている。入浴後は主治医処方の軟膏を塗布し、皮膚疾患予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間クーラーをつけたり、汗をかかれた方はシャワー浴をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し確薬をしています。また、薬剤師や医師と連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	訪問コンサートに参加したり、歌謡曲をテレビで流したりしています。おやつには食べたいものを選んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日はドライブへ出かけたり、買い物へ行っています。	ホームでは近所のショッピングセンターや衣料品店、寺院への散歩や買物支援など、入居者の楽しみとなる外出支援を行っている。家族との外出時には排泄状況の説明や必要に応じて緩下剤の調整を行うなど、外出が楽しいものとなるよう配慮している。また、外泊時などはオムツ交換の方法や介護技術の指導を家族へ行い、自宅等で入居者と家族が安心して過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やみこしが来た時のお賽銭など本人の要望に応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、希望される家族にはLINEで動画や写真を送ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、洗面所に季節の花を置いたり、娛樂室では日向ぼっこをされています。	ホームの玄関は常に開放し、リビングや広い廊下には明るい日差しが入り、娛樂室の窓からは田園風景が望める。廊下には排煙口が3箇所あり有事の際の対策に備えている。玄関先には花の鉢植えや金魚・めだか、リビングには熱帯魚を飼育しており、面会に訪れた孫と一緒に見るなど入居者の楽しみとなっている。娛樂室に布団を準備し、重度の方も一緒にリビングで過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き気の合う人と座ったり出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族・本人・職員で話し合いながら自分の居場所を作ってもらいます。	居室の広く大きな窓からは明るい光が入り、温かな空間となっている。また、家族写真や家族からの誕生日プレゼントを飾っており入居者の楽しみとなっている。布団類はホームで準備しているが本人の好みの柄や色に配慮しており、居心地良い空間づくりに努めている。電灯は落ちてでも割れないLED電球仕様に変更し安全面にも配慮している。床には耐火絨毯を敷き温かみのある仕様である。	居室はオムツや尿取りパット類がそのままの状態置いてあった。居心地の良い空間づくりや入居者の羞恥心に配慮するためにも、布などでの目隠しや収納するなど配慮することが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに合わせ手すりをつけたり、エアマット、ポータブルトイレ、畳、マットレスを使用しています。		